

## J R連合 N EWS

JRに集う すべての仲間の JR連合への 総結集を!!

No. 54

2019年11月21日

日本鉄道労働組合連合会

## 第17回四国の鉄道を考える国会議員連絡会

## 四国の鉄道ネットワークの活性化にむけた議論展開!

JR四国労組は、11月19日、都内で第17回「四国の鉄道を考える国会議員連絡会」を開催した。当日は同連絡会会長の小川淳也衆議院議員(JR連合国会議員懇談会事務局長)、同事務局長の玉木雄一郎衆議院議員、同幹事の白石洋一衆議院議員とともに、7月の参議院選挙で見事当選を果たした永江孝子参議院議員が出席し、永江議員を加えた新体制を確認した上で、JR四国の現状と今後の課題等について意見交換を行った。JR連合からは、荻山市朗会長、中山耕介組織部長、中村交通政策部長が出席し、JR四国会社、JR四国労組の参加者と総勢約20人が参集した。

冒頭、小川会長が挨拶に立ち「JR四国の鉄道ネットワークを中心とした地域公共交通は地域経済・社会生活に欠かせない。2021年度以降の新たな支援措置の実施にむけて向こう1年間しっかりと取り組まなければならない」と決意を述べた。

続いて、JR四国労組を代表して幸大副執行委員長が挨拶し「昨年の西日本豪雨による減収分を取り戻すべく、労使一体となって取り組みを続けているが、災害以前の水準に戻り切っていない。そのような状況下で、支援措置の節目を迎えることから、支援措置の延長をお願いしたい」と窮状を訴えた。

そして、JR連合の荻山市朗会長からは、「JR連合の政策課題の中でも、JR二島・貨物の経営自立にむけた取り組みが喫緊で最重要である。新たな支援については、JR連合国会議員懇談会メンバーとともに立ち上げるプロジェクトで、将来にわたり持続可能な交通体系の構築を掲げつつ、経営自立を実現するために取り組みを進めていく。単に弥縫策を求めるのではなく、骨太の議論を展開していく」と力強く語った。



その後、JR連合からは今後の取り組みの概要を報告し、会社からはJR四国の現状と課題について説明を受けた後、参加議員らからは四国における新幹線を骨格とした持続可能な交通体系の構築にむけた方策について、活発な意見交換が行われた。